

3 支援活動の報告 (釜石市派遣職員)

第 I 部 東日本大震災
3 支援活動の報告

3 支援活動の報告（釜石市派遣職員）

平成 28 年度に釜石市に派遣された本市職員による活動報告（10 名）

◆釜石市派遣職員

| | 派遣先 | 氏名（職種） | （頁） |
|---|--------------------------------------|-----------|-----|
| ① | 北九州市・釜石デスク 復興支援統括官（27/4/1～29/3/31） | 竹内 邦彦（事務） | 21 |
| ② | 釜石市復興支援本部都市整備推進室係長（26/4/1～29/3/31） | 内村 英樹（事務） | 23 |
| ③ | 釜石市復興推進本部都市整備推進室主査（26/12/1～ 29/4/24） | 長岡 睦美（事務） | 30 |
| ④ | 釜石市復興推進本部都市整備推進室主査（28/4/25～ 29/4/24） | 大庭 成道（土木） | 36 |
| ⑤ | 釜石市復興推進本部都市整備推進室主任（28/4/25～ 29/4/24） | 原田 一臣（土木） | 44 |
| ⑥ | 釜石市復興推進本部都市整備推進室主任（27/4/25～継続中） | 猪股 博之（事務） | 49 |
| ⑦ | 釜石市復興推進本部復興住宅整備室主任（28/4/25～ 継続中） | 古藤 崇世（建築） | 53 |
| ⑧ | 釜石市復興推進本部復興住宅整備室係員（26/4/3～ 29/3/31） | 打越 浩二（建築） | 56 |
| ⑨ | 釜石市産業振興部水産課主査（27/4/25～ 継続中） | 末永 芳治（土木） | 59 |
| ⑩ | 釜石市産業振興部水産課主査（28/4/1～ 継続中） | 中村 幸一（事務） | 63 |

順不同、敬称略

釜石市での2年間を振り返って

| | |
|------|----------------------|
| 派遣先 | 北九州市・釜石デスク |
| 所属 | 北九州市危機管理室危機管理課 |
| 氏名 | 竹内 邦彦 |
| 活動期間 | 平成27年4月1日～平成29年3月31日 |
| 支援活動 | 釜石への長期派遣職員総括 |

(復興の歩み)

平成27年3月29日、北九州市・釜石デスク復興支援統括官として釜石に足を踏み入れました。東日本大震災から4年経過しているにも拘らず市役所周辺に空地が多く、そこで野生のシカが草を食んでいる光景を目にしてショックを感じたものでした。

また、天然記念物の日本カモシカに出会ったり、市街地を流れる甲子川に秋になるとサケが遡上してくるのを見て驚いたものです。

しかし、この2年間で釜石の復興は大きく前進しました。東部地区市街地に復興公営住宅や店舗等の建設が進み、明りが多く灯るようになりました。被害の大きかった鶴住居地区も嵩上工事が終わり復興公営住宅が建ち、今春には鶴住居小学校・釜石東中学校が被災から6年目によりやく開校することになりました。

また、唐丹小学校・中学校も今春開校します。内覧会に参加しましたが、木を使ったモダンな仕様に生徒たちが喜んでいました。

漁港の整備も進み、漁船が入出港し、漁港にも賑わいが戻って漁獲高も震災前に戻りつつあります。震災で被災した漁業集落の高台移転事業も概ね今年度で完了する予定です。

復興公営住宅は計画数1314戸の内、今年度で1012戸(77%)が完成します。今年度が建設のピークで担当の北九州市派遣職員が休日も返上して内覧会や入居者説明会に従事していました。

これらの事業に、北九州市から派遣された職員が係の中心となって復興に取り組んでいる姿を見ると逞しく見えます。

また、釜石の幹部職員から北九州市職員の働きに感謝の言葉を頂くたびに、北九州市の釜石市に対する支援は復興の大きな力になっていることを感じました。

(釜石市への支援)

この2年間で、北橋市長を始め北九州市から多くの方に視察や義援金寄付のため釜石を訪れていただきました。

6年の月日が震災を風化しているように思える中、多くの方に釜石を訪問して復興の現状を認識いただけたことで、案内人としての仕事のできたのかなと思います。

特に、釜石復興にご尽力をいただいている北九州市議会から議員団等が釜石を視察し、議会などで支援について質問していただいているのをインターネットで視聴していると、感謝の気持ちで一杯になります。

また、板櫃中学校は吹奏楽部の定期コンサートで募金活動を行い、被災地釜石に寄付金を送る活動を続けています。

(株)ハローデイは、釜石に花の種を送り仮設住宅や小学校を花で明るくして欲しいと、平成24年からこの活動を続けていただいています。

八幡西区婦人会協議会は、唐丹小学校・中学校、鶴住居小学校、釜石東中学校が平成29年春に開校することを知り、図書購入資金として募金活動を行い、寄付金を釜石市長に手渡しました。

NPO法人ピース26は、釜石の特産品を取り寄せ小倉駅や門司港で販売しその売上金を昨年は釜石の子どもたちへ、今年は鶴住居公民館の図書の購入資金へと寄付金を釜石市長に手渡しました。

この様に、北九州からの温かい支援が色々な形で釜石に届けられていることに立ち会うことができ、釜石市と北九州市の絆の深さを感じる事ができた、釜石デスクに勤務した2年間はこれまでの人生の中で一番充実したものでした。

しかし、釜石ではまだまだ支援を必要としています。例えば小中学校の図書館は、棚に空きスペースが多くあり、子どもたちが読みたい本が補充されていない状況です。

(北九州市と釜石市の交流)

北九州市と釜石市は連携協定を結び、その中で世界遺産登録へ連携した取組を行い、平成27年7月「橋野鉄鉱山」は、ユネスコ世界遺産に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として登録されました。

また、両市で行われるイベントでも積極的に交流が図られています。釜石市で行われる冬の味覚まつりで、「絆焼うどんプロジェクト」が絆焼うどんの実演販売を毎年行っていますが、2年前からは、秋の味覚まつりにも参加し、北九州市の特産品を販売して北九州をアピールすることができました。

北九州市で行われる農林水産まつりでは、釜石市はサンマの振る舞いを行うと共に、釜石特産品の販売を行いました。

平成29年3月に北九州市立文学館で行われた企画展「北九州市と 3.11 そして熊本地震」には、釜石の現状を知っていただくため釜石市復興推進本部事務局長の佐々木勝氏を招聘し、復興状況をお話しいただきました。

(終わりに)

釜石市の復興は未だ道半ばの状況ですが、ハード面はここ2～3年で概ね完了すると思われれます。これに伴い宅地の引き渡しや個人住宅の建設が始まりますが、住居表示や固定資産の賦課に従事する職員の不足は否めません。

北九州市は今後も引き続き釜石市の支援を行っていただければ釜石市復興の一助になると思います。

2年間、釜石で仕事を行い釜石の復興をこの目で見ることができたこと、また、多くの友人に出会えたことは私の財産になると思います。

この機会を与えていただいた北九州市に感謝して、第2の故郷釜石を後にします。

釜石 Blue ～最終章～

派遣先 釜石市復興推進本部都市整備推進室
所属 北九州市危機管理室危機管理課
氏名 内村 英樹
活動期間 平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
支援活動 用地買収業務

釜石派遣 3 年目、娘からは相手にされず、妻からは頼りにされず、私は家族にとって必要でないかに見えた。（経緯については平成 26 年度、27 年度レポート参照）
だが、息子からは見放されていなかった。

息子だけは定期的にメールをくれるのである。
しかも必ず月に一度はある。
愛すべき息子である。
メールの内容は決まっている。
「買って欲しいものがある。」

そして、専有面積約 6 畳の私の部屋の真ん中、ひときわ存在感があるというランニングマシンの上を今、ハムスターのように走っているかもしれない彼の姿を想像するだけでも癒されるのである。

さて、本題に入ろう。

【事業】

平成 26 年度から引き続き同じ事業を担当しているため、過去のレポートの繰り返しになるが、あらためて説明させていただく。

釜石市では被災地区を 21（市街地 5、漁業集落 16）に分類し、それぞれ被災状況や地域の特性に応じて「安全確保」「住まいの再建」「避難の仕組みづくり」を 3 つの柱に復興まちづくり基本計画の策定を行っている。21 地区



のうち私が担当しているのは市街地部に分類されている東部地区である。

東部地区は釜石港の北西側に位置し、釜石市の市街地の中で、古くから発展した地域であるということであるが、狭い敷地に住宅や店舗などが混在・密集しており、今回の津波で甚大な被害を受けた。

また、復興関連事業について、釜石市においては「防災集団移転促進事業」、「区画整理事業」、「津波復興拠点整備事業」等、それぞれの地区の特性や実情に応じた事業を実施している。

このうち、私の担当事業は「津波復興拠点整備事業」である。

「津波復興拠点整備事業」の目的は、津波により被災した地域の復興を先導する拠点とするため、住宅、公益施設、業務施設等の機能を集約させた津波に対して安全な市街地を緊急に整備するというもの。

具体的にはこの地域の事業区域の土地、もっとも低い部分で標高1～2mの土地を最大で標高8mを超える嵩上げを行う。

区域全体を嵩上げすることで防潮堤としての役割を持たせるとともに、この嵩上げした土地に新たに道路・上下水道などのインフラ整備を行ったうえで宅地として売却する（以下、この土地を「再分譲地」という。）というものである。

再分譲地の売却相手は、事業のために市に土地を売却した元の地権者等である。

整備前後のイメージ図は次の通り。

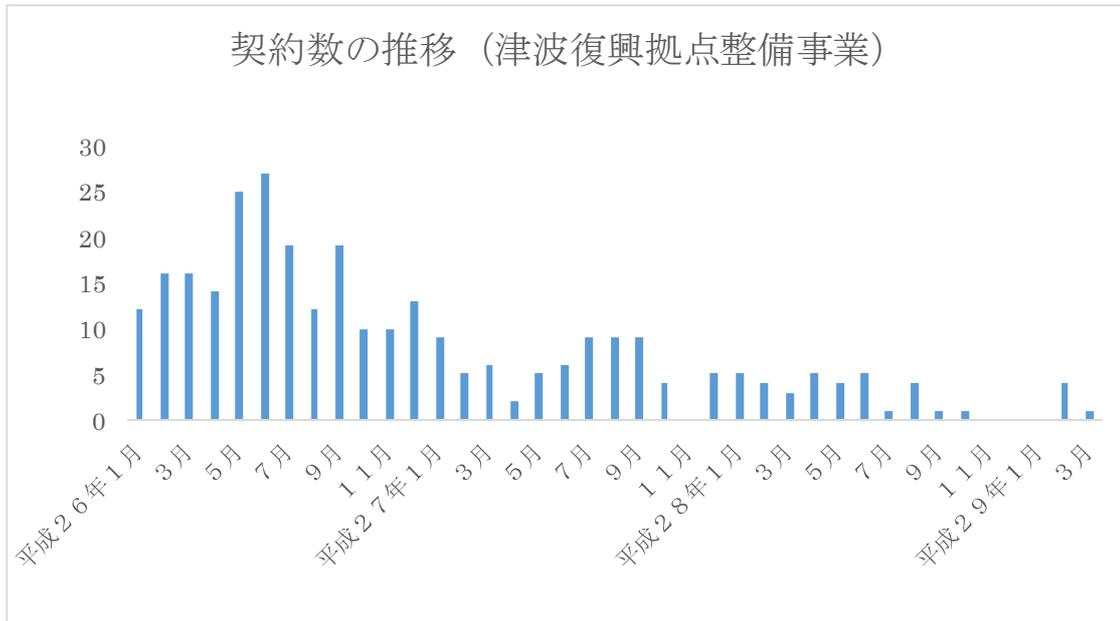


このために約4.5ha、350筆の土地を取得する必要がある。

この事業の予算規模は全体で約140億円、このうち用地費・補償費で約70億円を見込んでいる。

【用地買収】

平成25年から始まった用地買収の契約の推移は以下のグラフ通り。



平成27年度の取得筆数が94であるのに対して、28年度は28、当然ではあるが、年々契約件数は減っており難航案件ばかりが残っているという状況である。

平成28年度末時点で未買収地は残り17筆。数が減っているから楽だろうと思われるかもしれないがそうではない。いままでの歴代担当者が買えなかった難航案件ばかりが残っているからある。

難航している具体的な理由は

- ・相続で遺産分割協議がまとまらないもの。
- ・相続人のうち、成年後見人等の申立てが必要な方がいるもの。
- ・相続人のうち、行方つかめず不在者財産管理人の選任が必要な方がいるもの。
- ・相続人のうち、所在は明らかであるが面会困難な方がいるもの。
- ・これらが、重複するもの。
- ・補償金額に同意が得られないもの。
- ・補償金額等は概ね合意ができていますが、移転先（再分譲地）の地盤の強度が住宅メーカーの地盤強度を満たさないため建築の着工ができないもの。

などが挙げられるが、ほとんどが相続案件となっている。

このような問題を解決し、売買契約まで行うにはもうすこし時間を要することになる。

そこで、事業の進捗に大きな影響を与える土地（例えば、盛土のための仮設道路用地をどうしても作らなければならない土地が未買収地である場合など）については、相続人のうち納税管理人等土地を事実上管理してきた方から「起工承諾書」（盛土や造成を行うことを承諾しますという旨の書類）を提出ししていただき、造成工事等を進めているところである。

東部地区の造成の様子（平成29年3月27日撮影）



【再分譲地】

業務は用地買収だけではない。

今年度は、再分譲地を造成・売却するための準備を行った。

昨年度までは嵩上げ完了後にどの位置にどれだけの面積の土地を買い戻すかということについては、再分譲希望者と面談を行うなど意向確認協議を行い、図面などで権利者に対しては示し同意を得てきたところである。これはいわゆる「口約束」程度のもので法的なものではない。このため本当に買い戻せるのか心配している権利者もあり、今年度は権利者の方から再分譲地譲渡（貸付け）申請書を提出してもらい、これに対して譲渡（貸付け）決定通知書の交付を行うという業務を行った。

併せて宅地のどこにガス・水道・汚水を敷地のどこから引き込むか、駐車場はどう配置するか、引き込む水道の口径を何ミリにするかなど、面談会方式で日時を指定し、個別に面談に来庁していただき決定していった。また、全員が決定したわけではないため、継続案件となっている。

さて、他にもいろいろと業務はあるが、業務の話は前回のレポートで報告したところでもあり、キリもないので以上とするが、決して手抜きではない。

これからは、その他心に浮かぶよしなしごとを、そこはかたく書き綴ることとする。

【その他】

●健康管理

釜石派遣の3年間、友人等から私の健康やメンタルヘルスについて心配していただいた。幸い、大きな病気にもかからず3年間を釜石で過ごすことができた。

振り返ると思い当たるふしがあるので紹介させていただくこととする。

平成26年度、派遣1年目の初夏、派遣者研修という各自治体等から派遣された人たちに向けた研修が1泊2日、盛岡市で行われた。

この研修では講師からメンタルヘルスについて講義を受けた後、派遣職員と意見交換を行い、意見をグループごとにまとめ、リーダーがそれを発表するというものであった。

講義では、「復興のためといっても、仕事を無理して病気になり長期に休むようになってしまつては、結局復興のためにはならないし、誰もそれを望んではない。健康管理も業務のうち。」という主旨だったと思う。

その後、派遣職員から発表された意見では、旅行をしたり、温泉に入ったり、お祭りに行ったり、スポーツをしたり、おいしいものを食べたり、そして行くならばどこがよい、という具体的な例も出され、とても有意義なものであった。

そして、この研修後、私はすぐにこれを実践した。

全て記載することはできなかったが、実践のため訪問した主なところは次の表のとおりである。

第 I 部 東日本大震災
3 支援活動の報告

| 分類 | | 県 | 都市町村 | 回数 | 備考 | |
|-----------|------------|-----------------|----------|-----------|-----------------|---------------|
| 祭り | 札幌雪祭り | 北海道 | 札幌市 | 1 | お勤めは夜のプロジェクトマップ | |
| | ねぶた祭り | 青森県 | 青森市 | 1 | らっせーらー | |
| | 立佞武多 | 青森県 | 五所川原市 | 1 | やってみれ、やってみれ | |
| | 三沢基地航空祭 | 青森県 | 三沢市 | 1 | 爆音 | |
| | 六魂祭 | 秋田県 | 秋田市 | 1 | 人が多すぎて見えん | |
| | 全国花火競技大会 | 秋田県 | 大仙市 | 3 | 花火大会最高峰の戦い | |
| | 竿灯まつり | 秋田県 | 秋田市 | 1 | どっこいしょ、どっこいしょ | |
| | 釜石港まつり | 岩手県 | 釜石市 | 1 | 曳き舟たなびく大漁旗 | |
| | 六魂祭 | 山形県 | 山形市 | 1 | 東北で初めて行ったお祭り | |
| | | 計 | | | 11 | |
| 温泉 | 湯の川温泉 | 北海道 | 函館市 | 1 | 寒い時に温まった、帰りに冷えた | |
| | 登別温泉 | 北海道 | 登別市 | 1 | 飲みすぎて覚えてない | |
| | 竜飛崎温泉 | 青森県 | 外ヶ浜町 | 1 | 冬景色、風強し | |
| | 不老不死温泉 | 青森県 | 深浦町 | 1 | 海沿い夕日を見ながら湯に浸かる | |
| | 鱒ヶ沢温泉 | 青森県 | 鱒ヶ沢町 | 1 | 飲みすぎて覚えてない | |
| | 酸ヶ湯温泉 | 青森県 | 青森市 | 1 | 1000人風呂でかい | |
| | 鳶温泉 | 青森県 | 青森市 | 1 | 建物が豪華 | |
| | 谷地温泉 | 青森県 | 十和田市 | 1 | 日本三大秘湯の1つ | |
| | 大鱒温泉 | 青森県 | 大鱒町 | 1 | 道の駅にある | |
| | 乳頭温泉郷 鶴の湯 | 秋田県 | 仙北市 | 2 | よくテレビに出る有名な温泉 | |
| | 乳頭温泉郷 蟹場温泉 | 秋田県 | 仙北市 | 1 | 湯の花が浮いてた | |
| | 乳頭温泉郷 孫六温泉 | 秋田県 | 仙北市 | 1 | 駐車場からga遠い | |
| | 玉川温泉 | 秋田県 | 仙北市 | 1 | 酸性が強くヒリヒリ | |
| | 新玉川温泉 | 秋田県 | 仙北市 | 1 | 建物が新しい | |
| | 水沢温泉 | 秋田県 | 仙北市 | 1 | スキーの後にいった | |
| | 泥湯温泉 | 秋田県 | 湯沢市 | 1 | その後旅館が火事に | |
| | 後生掛温泉 | 秋田県 | 鹿角市 | 1 | 馬できて足駄で帰る後生掛 | |
| | 松川温泉(彩雲荘) | 岩手県 | 八幡平市 | 1 | 岩手山の近く | |
| | 藤七温泉 | 岩手県 | 八幡平市 | 1 | 硫黄のにおいがとれん | |
| | 国見温泉 | 岩手県 | 雫石町 | 1 | エメラルドグリーンの温泉 | |
| | 花巻温泉(郷) | 岩手県 | 花巻市 | 15 | 完全制覇 | |
| | 銀山温泉 | 山形県 | 尾花沢市 | 2 | 大正レトロの建物が建ち並ぶ | |
| | 肘折温泉 | 山形県 | 大蔵村 | 1 | 昭和レトロがしい雰囲気 | |
| | その他 | | | 33 | 赤倉温泉、瀬見温泉、中山平温泉 | |
| | | 計 | | | 71 | |
| | スキー | 八甲田山スキー場 | 青森県 | 青森市 | 2 | 新雪に埋まって身動きとれず |
| | | 青森スプリング・スキーリゾート | | 鱒ヶ沢町 | 1 | 空いてよかった |
| | | 安比高原スキー場 | 岩手県 | 八幡平市 | 2 | 高級リゾート雪質パウダー |
| | | 八幡平パラマスキー場 | 岩手県 | 八幡平市 | 1 | 初心者コース |
| 八幡平下倉スキー場 | | 岩手県 | 八幡平市 | 1 | 平日のゲレンデ独占 | |
| 雫石スキー場 | | 岩手県 | 雫石町 | 3 | コースが多彩スマホ落とす | |
| その他 | | | | 17 | 鉛温泉、越路、赤羽 | |
| | 計 | | | 27 | | |
| ゴルフ | 安比高原ゴルフクラブ | 岩手県 | 八幡平市 | 1 | 10月に雪が降ってた寒かった | |
| | 岩手ゴルフクラブ | 岩手県 | 紫波町 | 1 | 山の上にゴルフ場 | |
| | 金ヶ崎ゴルフコース | 岩手県 | 金ヶ崎町 | 1 | 広くてきれい | |
| | 北上市民ゴルフ場 | 岩手県 | 北上市 | 2 | 安い定額回放題 | |
| | 計 | | | 5 | | |
| 観光 | 小樽 | 北海道 | 小樽市 | 1 | 運河と海鮮丼 | |
| | 竜飛岬 | 青森県 | 東津軽郡外ヶ浜町 | 1 | 津軽海峡冬景色 | |
| | 大間崎 | 青森県 | 下北郡大間町 | 2 | マグロで有名 | |
| | 恐山 | 青森県 | むつ市 | 1 | 三大霊場の一つ独特の雰囲気 | |
| | 男鹿半島 | 秋田県 | 男鹿市 | 2 | なまはげ | |
| 角館 | 秋田県 | 仙北市 | 2 | しだれ桜と武家屋敷 | | |
| | 計 | | | | | |
| 登山 | 五葉山 | 岩手県 | 住田町 | 2 | 山登り初心者コース | |
| | 岩手山 | 岩手県 | 八幡平市 | 1 | 山の上にこんな景色が | |
| | 秋田駒ヶ岳 | 秋田県 | 仙北市 | 1 | 紅葉が見事 | |
| | その他 | | | 4 | 鯨山、猫山、薬師岳、石上山 | |
| | 計 | | | 8 | | |
| その他 | 氷上ワカサギ釣り | 岩手県 | 盛岡市 | 2 | 2回で釣果2匹 | |
| | いちご狩り | 宮城県 | 山本町 | 1 | 食べ放題で夢叶う | |
| | さくらんぼ狩り | 山形県 | 天童市 | 1 | 食べた一生分 | |
| | ツーリング | 東北各地 | | 6 | 3年6000km | |
| | | 計 | | | 10 | |

どうやら私にとってレジャー等の息抜きは、メンタルヘルスの維持について大きな効用があったようである。

●文学

東北には著名な文学者が多い。

宮澤賢治（岩手県）・・・「銀河鉄道の夜」「注文の多い料理店」

石川啄木（岩手県）・・・「一握の砂」「悲しき玩具」

太宰治（青森県）・・・「斜陽」、「走・・・」

「嘘だったの。本当はあなたが釜石へ派遣されている間は本当に大変だったのよ。だって、そう言わないとあなたが心配して仕事どころじゃなくなるでしょう？だから、安心させようと思って。」

「妻よ。私を殴れ。ちから一杯に俺を殴れ。俺は君の言葉を素直に受け取り、帰るところはないなんて言ってしまった。そして単身赴任期間中は家庭のことは省みなかった。心配させまいとしていた君をうらぎった。だから俺を殴れ。君が殴ってくれなければ、俺の気がすまない。そうしなければ、俺は君と抱擁する資格さえないのだ。だから、俺を殴れ。」

「いえ、あなた、私を殴って。同じくらいの強さで。私は3年間の間、一度だけあなたを疑った。生れてはじめてあなたを疑った。あなたが私を殴ってくれなければあなたと抱擁できない。」

「走れメロス」

と、書こうと思ったところで「家に帰ったらこういうことはないかな・・・?」、ふと頭に浮かんだ派遣最終日の話である。

【お礼】

関係者の皆様、3年間大変お世話になりありがとうございました。

紙面をお借りして大変恐縮ですが、お礼を申し上げます。

全力疾走！

派遣先 釜石市復興推進本部都市整備推進室
所属 北九州市危機管理室危機管理課
氏名 長岡 睦美
活動期間 平成26年12月1日～平成29年4月24日
支援活動 用地取得に係る交渉、登記、補償業務

【はじめに】

平成26年度も半ば過ぎに釜石派遣が決まり、振り返ってみればもう2年と5ヶ月が過ぎようとしている。寒い時期に寒いところで頑張るのだからと、必要以上にアドレナリンが出ていたと思うが、そのままずっと突っ走ってきたのかもしれない。

実際の年月よりももっと長くいたかのような印象であることは、自他ともに認めるほどにとってもなじんだ釜石派遣生活であった。

【業務内容】

釜石市の主な市街地整備事業は、市内21地区において被災市街地復興土地区画整理事業、津波復興拠点整備事業、防災集団移転促進事業、漁業集落防災機能強化事業の4事業を実施している。

私の業務は、被災市街地復興土地区画整理事業（21地区中4地区で実施）平田地区での支障物移転補償交渉業務である。初年度から土地区画整理事業の担当だったが、今年度は

平田地区 35 街区道路擁壁 28 年 7 月



その業務に加えて、津波復興拠点整備事業（21地区中2地区で実施）東部地区の一部も担当することになった。

被災市街地復興土地区画整理事業は平成30年度の事業完了を目標としており、平田地区では造成工事を進めていくにあたって、私の担当である補償交渉は順調に進んできた。

一方、東部地区は若干の遅れが出てきており、応援要請があったため、かけもちで担当することになった。

平田地区 35 街区道路擁壁 29 年 3 月



事業ごとに、若干の手法の違いはあるものの、補償交渉の業務はどの事業も同じであるので、特に困ったことはなかった。

しかし、事業開始から5年近く経っても未だ課題を残している補償交渉案件であるがゆえに、時間がかかるものばかりで、たくさんの件数をこなしていく時期とは違った難しさがあった。

【それぞれの事業手法】

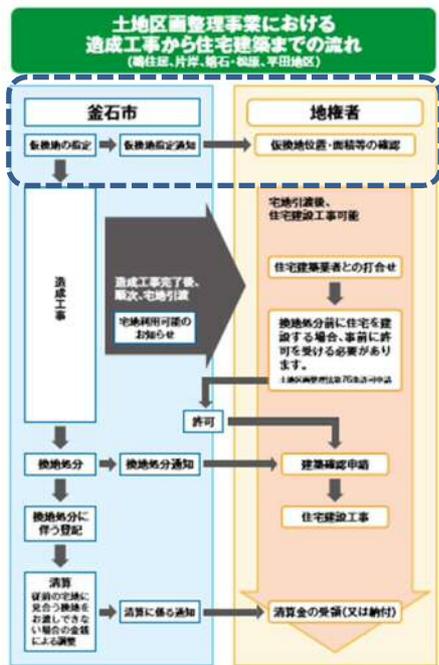
いくつかの事業のうち、たまたま今年度は土地区画整理事業と津波復興拠点整備事業の2事業を同時に経験してみて感じたが、それぞれの事業で一長一短があり、復興事業の道のりの長さをあらためて考えさせられた。とりわけ、事業ごとに異なる土地取得の違いが、多少なりとも工事進捗に影響しているように感じられた。

土地区画整理事業では、地権者が持っている従前地を市が仮換地指定したあとに造成工事をするため、比較的すぐに工事に取り掛かれる。

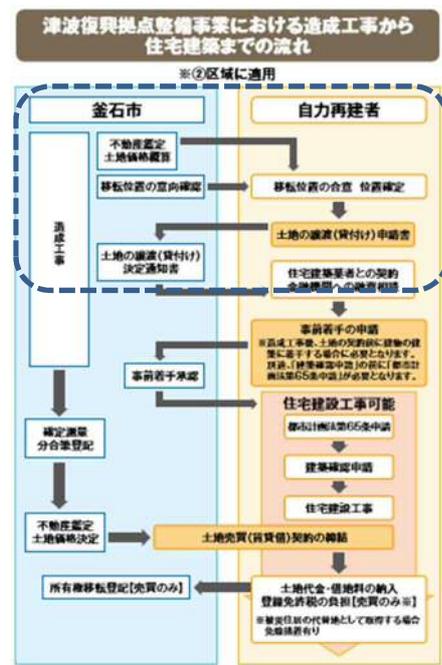
津波復興拠点整備事業では、移転位置を確定後に譲渡申請を経て再分譲するため、土地に対して買い上げ、売り戻しが発生し、市への所有権移転がなければ造成工事にかかれないといったもどかしさがある。

この違いも復興交付金の制度と運用を一生懸命に考えた末の決定であれば、それに従っていくしかないのだが。

 この部分の手順が造成工事着手に影響



釜石市被災者支援ガイドブック 2P より



釜石市被災者支援ガイドブック 4P より

【東部地区の現状】

東部地区はあらたな課題にもぶち当たっている。当初見込んだ移転者数が減少してきていることだ。被災後6年も経てば状況は変わってくるのは当たり前のことで、確実に被災者が高齢化していく中、住宅を再建するエネルギーが失われてきていることが一因かもしれない。

では、その移転者数が減ったことに対してどのように対処するかであるが、割り当てられた面積を少しずつ広げることで解決せざるを得ない。

東部地区浜町付近平成 26 年 12 月



もともと、港町の中心街であったため、商業店舗が多く点在し、各々の面積は住宅地域よりは狭小であった。再分譲地の移転確定のルールとして 100 m²未満の土地所有者には、最大 100 m²までの土地取得が可能といった条件で再分譲地を割り付けたものの、当初見込みより画地の空きが出てきたならば、100 m²以上の土地取得も可能にしてはどうかといったことを検討してきた。

しかしながら、区画を広げるといったことは、現状の設計段階での変更は難しく、このまま方向性ばかり探っているのは工事進捗に影響が出るばかりである。結局、空き画地に対してどの優先順位で変更希望を取るかという議論にしかならない。

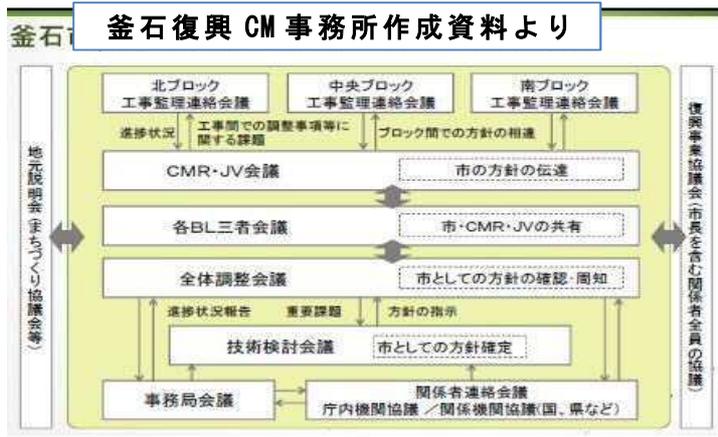
もちろん最良の形で納得のいく再分譲をしたいという目標は崩したくないし、焦るばかりの日々が続いて行く。

東部地区浜町付近平成 28 年 12 月



【複雑な意思決定】

組織的にも非常に複雑で、釜石市（自治体）、CMR（プロジェクト実施運営管理者）、JV（建設共同企業体）といった三者の位置関係が、3 年度目にしてやっと掴めてきた気がするし、理解してみると、こんな言い方をすれば失礼だが、機能的に動き始めたのはようやく今なのではないかと思う。



実際のところ、限られた期間で事業実施するにあたり、三者で綿密に情報共有しなければ、物事が全く進まない。会議でも傍観者ではいられなくなってきて、意見を求められ、どんどん発言することで、本当にそのとおりに動いていくさまが実に現実的であった。

【ちょっと残念だったこと】

二つの事業を経験して、やろうと手がけたことは一通り結果を出せたのではないかと思う。正直なところ、本音としてはとてもハードであったが、その分、今年度は、やり甲斐も達成感も感じる事ができた。

しかし、いまひとつ喜びとか嬉しさに結びつかない。その理由は漠然として自分でも何を求めているのか疑問であった。

「わーげわがんね。もう、いーいべだらー。」北九州弁でいうところの「よーわからんし、もう、いいっちゃ！いいっちゃ！」と言ったところだろうか。

日々の仕事に行き詰ったとき、「いいがら、いいがら。」とよく言われてきた。その言葉の後ろには、そんなに頑張り過ぎなくても何とかなるから、と労ってもらっている優しさを感じている。

と、そのあとの言葉が決まって「うそ、うそ。ちゃんとやっぺし。いーのさ、なーに、ちゃんとやっから心配すんなって！」である。

そのときの上司の視線は必ずと言っていいほど、びっしり予定を書き込んだ手帳の先にある。

私への慰めのようにでもあり、自分自身への戒めのようにでもあり・・・。

釜石市の職員の皆さん、特に震災後からずっと復興推進本部に携わっていらっしゃる人たちは、とても疲弊しているのがよくわかる。

だから、一生懸命やっていて、ああ報われたなあといった出来事をともに分かち合う仲間がいれば、また明日も頑張れる気がするだろうに、みんなひとりひとりが大量に仕事を抱えていて、未だにそんな余裕が持てないではないかを感じる。

疑問は少しだけ解けた。余裕がなかったのか。

二つの事業を掛け持って、何とかこなせたものの、ひとりよがりの達成感でしかなかったかもしれない。やったね！って、みんな喜び合うシーンを求めていたのかもしれないが、もう少し先かなあ。あとちょっと。まだまだ道半ばであることを忘れていた。

【不思議な発見】

例年話題にしてきた卓球も締めくくりである。

職場や地域の交流はもとより、私を支えてくれた卓球という大切なコミュニティ。

釜石市は硬式よりもラージボールが盛んで、私は全くのラージボール未経験者であったが、縁あって釜石市赴任直後からラージボールデビューをすることになった。



釜石市卓球協会Tシャツ、絆の仲間入り

ピンポン玉の大きさは、硬式が40mm、ラージボールは44mm。この僅か4mmの差が大きくゲームを変える。ラケットに貼り付けるラバーも両者で異なる。

この2年と5ヶ月、練習も大会もほとんどラージボールばかりであったが、毎年1月末に花巻市で開催される北日本



茹でたての毛ガニ

大会という硬式の大会にだけは必ず参加してきた。

我がチーム恒例の「花巻温泉宿泊付き」、「毛ガニ食べ放題」が楽しみである大会だから、というわけではないが、今年で86回大会といった歴史ある大会に、東北在住であるからこそ参加できるチャンスを逃すわけにもいかない。今年は3度目の参加にして、ようやく50代女子シングルスで3位に入賞することができた。

あれっ？ラージボールの話題がいつの間に硬式大会に？というところであるが、少々、前置きが長くなってしまった。硬式大会での今年の成績が良かったのは、私が苦手とするタイプの選手に快勝した結果であるということである。なぜ、ラージボールの練習ばかりで、硬式球の練習もせず好成績だったかということ、その硬式球で苦手なタイプの球質が、ラージボールの球質にとってもよく似ていて、ラージボールしか練習していないことが硬式球の苦手対策となっており、いつのまにか克服できていたのだった。

物事は、直接的に結びつかないことでもいつかどこかで形になるのだと、何だか不思議な発見をしたようだった。しかも、日々気付かないような小さな積み重ねでしかないようなことなのに。

たかが卓球だけれど、この結果で得たものはとても大きく、まさに釜石での体験そのものがいつかどこかで具現化するであろう期待感に満ちている気がした。

【最後に】

長くもあり短くもあり、とても充実した2年と約5ヶ月であった。

見知らぬ土地に行って、たくさんの人と出会い、貴重な経験をしたことは、何にも代えがたい大切な宝物である。

ひとつひとつの出来事がそれぞれに意味を持っており、みんな重なり合って、思い出と

なっていくのだろうか。

派遣を経験した仲間達は、口々に数年後の事業完成時にまた釜石を訪ねたいと言っている。もちろん、私もそのひとりであるのは間違いない。

さしあたり、来年の北日本大会を口実に、また毛ガニと花巻温泉を満喫している姿は簡単に想像できる。

釜石市の皆さま、全国からの派遣職員の皆さま、本当にお世話になりました。

ともに苦勞し、ともに闘い、ともに飲み語らい、釜石での生活は決して忘れません。

遠く離れた北九州から、釜石の復興を心より願っています。

どうもありがとうございました。